

令和5年10月10日

京口門だより No. 120

畔には赤い曼殊沙華が咲き誇っています。猛暑が続いたと思えば、急に秋の気候に変化して寒さを感じるくらいです。気温の変化に体調を崩さないようご注意ください。また新型コロナ感染症も続き、インフルエンザも流行するというので、風邪などには十分注意してください。

「飯うつす湯気に日のさすうすら寒む」(柳田湘江)

今回はよく耳にする消化器の病気として逆流性食道炎の話をしたと思います。一般に逆流性食道炎といわれる病気は何らかの原因で、胃と食道の間で通過障害が起こり、食べ物や胃酸が逆流して食道の粘膜障害を起こし、胸焼けや呑酸(酸っぱいもの苦いものゲップなど)の症状を発症する病気をさしています。胃食道の通過障害とは、食道の筋肉の運動障害(アカラシアという)や食道付近の壁がふくらむ憩室、あるいは胃食道ヘルニアといって胃の一部が食道の通る横隔膜の一部分から突出して通過障害を起こすものなどが原因で通過障害が起きてくるものをさしています。むろん悪性腫瘍による通過障害もあります。逆流性食道炎は胃・食道付近に明らかな原因が認められるのですが、そうした原因がはっきりせず、食道の粘膜障害もなく、ただ胸焼けや呑酸の逆流症状をおこしてくることもあります。

このような粘膜障害をとともなう逆流症状には、強力な胃酸分泌抑制剤たとえばシメチジンやオメプラゾールなどが投薬されますが、粘膜障害を伴わない逆流症状には抗うつ剤などが投薬されることがあります。しかしこうした治療でも上手く治まらない場合やとくに粘膜障害を伴わないような逆流症状には、漢方薬が上手く効いてくる場合があります。胃と食道の通過障害による痞えを治す漢方薬が有効です。現代西洋医学ではなかなか治りにくい逆流症状に、外科的な手術を勧められることもありますが、その前にわれわれの漢方治療を試みられてはどうでしょうか。

現代医学では治療に難渋する場合には、手術ができる場合は外科的手術をすすめるか、治らないものとして手放されるかですが、そういわれて諦めることはありません。漢方薬が有効な治療法を持っていることがあります。この逆流性食道炎でも難治性の消化性潰瘍でも憩室炎でも良くなってゆく例があります。

